

第16回網走市選択する未来会議発言要旨（令和7年1月23日（木））

～第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について、資料に基づき事務局より説明～

●議長

順番にお伺いしていききたいと思いますけども、基本目標1について何かご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

○委員

基本目標1の【1】産業振興策の構築の中に、「スマート農林漁業など新技術の活用により」と書かれてありますが、新技術というのは何を指しているのですか。

●事務局

デジタル技術を用いた新しい取り組みを想定しています。漁業では、網走漁協さんにもいち早く取り組んでいただきましたが、今まで目視で確認していたホタテの生育状況を、撮影画像からAIが判断するというような仕組みですとか、農業ですと、天候情報に基づき肥料を撒くタイミングや収穫時期をAIが判断する仕組み、ドローン、それから養殖技術についても、様々な新しい技術が入ってまいろうかと思っておりますので、そういったところをイメージして作っております。

国が総合戦略を定めるにあたり、デジタル技術の活用の方針として出しております。それに参酌し、今回の取り組みの中ではデジタル技術の活用を念頭に置いて進めているところであります。

○委員

もうちょっと言うと、お題目としてはそれでいいんです。

例えば、それを推進するために、市としてそういう予算付けも含めて、そういう風な向きに進むような施策を打っていくということですか。

●事務局

特に農業系、漁業系については、デジタル技術を活用した課題解決に取り組む加工業者さん、水産業者さん、農業者さんに対する支援という補助メニューを、令和6年度から新たに創設をしている経過もございます。

勝負できる一次産業を作っていかなければだめだということでは共通認識であります。

○委員

デジタル化を予算付けされる中で、それを今いる人材だけではなかなか難しいじゃないですか。他から、よその人材も含めて予算付けをして人を集めてくるということですか。

●事務局

デジタルに特化した人材確保というのはなかなか難しいと思っておりますので、そこは外部の専門家からのアドバイスという手法になろうかと思っております。

一次産業とは少し離れますけども、網走市はいち早くグーグルと連携協定を結びまして、DXの推進、教育の分野でもアドバイスをいただけるような体制を築いておりますので、各業界のご要望もお聞きしながら、適当な方をご紹介するようなことはお手伝いできるのではないかと考えています。

●議長

このほか、基本目標1で何かご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

○委員

例えば、セリだとかいわゆる入札とか手書きでやってるんだけど、これをタブレットでやってそのまま全部資金帳まで一元化してやっていくという、こういうのは先行して漁業協同組合のものを、自分たちでそういう会社とコンタクトとったりするんだけど、そういう意味では市はどこにも出てこない。こうやって書いている以上は、やっぱり市にも相談できるような窓口とか、そういうところに相談したら市がお世話するとか、そういうのをやらないと、お題目だけで実際何も、紙に書いただけで何にもならないということにもなるしね。

それから、やろうとすることではいろいろ経費がかかってきて、自分たちでやれることはやるつもりではいるけども、市としてこういう扱いがありますよと、税制上でも融資でもどっちでもいいんだけど、そういうのも、この後になるのかもしれないけどやっぱりやっていかないと、具体的に前に進まないと思います。

●事務局

原課を窓口として要望をお聞きしながら情報を共有してまいります。さまざまな情報の一元化というところでは我々比較的、得意かと思しますので、お互いに情報を集めて、何が得策なのかというところは随時相談させていただきます。

●議長

そのほか、よろしいでしょうか。

○オブザーバー

2－1の幅広い人材確保に関係するのかなと思うんですけども、商工業者中心にやっぱり人材不足、働き手不足が課題になっていて、そういったこともあってこういった項目たてられているかと思うんですが、他方では今、高齢による廃業が進んでいて、事業承継というのも一つ大きなテーマだと思うんですけども、拝見した中ではキーワードとして事業承継という言葉は見当たらなかったんですが、網走市さんとしてはどのようなお考えなんでしょうか。

●事務局

事業承継をしていただける人を探すというところも、人材不足対策として、ここはひとまとめにするのが適当かどうかというところの議論もありますが、そこも含めて考えております。

今回、新しい戦略を作るにあたり、ポイントが2つございます。国の方向性を参酌したデジタル化を進めていくというところが1つ。

それから、直近の状況を鑑みますと、人材不足の解消はかなり強力に進めていかなければならないだろうと考えておりまして、この部分の施策は増やしております。評価指標につきましても数を増やしておりまして、きめ細かい分析ができるようにというところを心掛けているところです。

どんなことができるかというのは、実際に個別の計画を立てながら進めていくことになるうとは思いますが、力を入れて進めていこうと考えている部分です。

○委員

商工会議所の中に廃業というか、事業承継のメニューがあるんだから、市と商工会議所がもっと密着してやって、実働は商工会議所が主体的にやっていくけど、商工会議所任せじゃなくて、市と商工会議所が連携していくっていうのはどんどん進めていったほうがいいんじゃないですか。

●事務局

おっしゃるとおりで、さらに連携を深めていける部分はそうようにすべきと考えています。

○オブザーバー

補足させていただくと、会議所さんと日本公庫で連携させていただいて、この事業承継に関しても、商工会議所の会員さんであれば、日本公庫の中に事業承継のマッチングサービスがあるんですけども、そちらに登録することができるんです。譲り渡したい人、譲り受けた人、どちらも登録できるような形になっていて、会議所さんを通じてそういったサービスを提供させていただくことができるというところが一例としてございます。

●事務局

事業承継に関して言えば、企業のみならず、これまで網走ではおそらく盤石だろうと思われていた農業分野でも事業承継が難しい例が出てきていますので、待ったなしだと思います。

●議長

そのほか何かお気づきの点ございましたら。よろしいでしょうか。
それでは次に基本目標2のほうで、何かご意見、お気づきの点ございましたらお願いいたします。

○委員

交流人口はわかってきたんですが、関係人口の定義はどのように捉えたらいいんですか。

●事務局

交流人口は単に交流だけですので、旅行でいらした方ですとか、そういう位置付けです。
関係人口はそこから一步進んだ概念でして、網走に住んでいないんだけど、網走と密接に関わって、まちづくり、まちおこしをしてくださる方、関係してくださる方というような位置付けです。明確な定義はないんですが、概念としてはそういう考え方をされております。

○委員

まちづくりに特化している？

●事務局

特化ではないです。企業でもそうですけれども、網走に住んでいないながらも、網走に住んでいる人と同じように活動してくださる方というくくり方をされていることが多いです。

○委員

東京農大がこれだけの年数網走にあって、東京農大を卒業していろんなところで働いて、網走に遊びに帰ってくる、家族を連れて旅行に来るといった仕組みづくり、こういうのをやっぱ長く4年も5年もいる人たちだから、そういう人たちに対する仕掛け方もね。

それから、大学の先生方もすでにリタイアしていて、元気であってもリタイアしている先生方もおられるので、もうちょっと深くそういうものをやるということをやったほうがいいんじゃないですかね。

新規の人とやるというのも大事なんだけど、なかなか誰とどうやって具体的にやるのというのができないんで、むしろもうすでにリストもあるし、どこに就職してるか具体的に把握してたりね。それで、帰ってくるとしたときに、なにかできることがないか、もっと積極的にかかっていってもいいような気はするんだけどね。

●事務局

せっかく4年間を網走で過ごして、網走の良さ、悪いところ含めていいところをたくさん感じ取ってくださった大学の卒業生との関係を切らせるというのは非常にもったいない話ですので、世田谷でやっているホームカミングデーに足を運んで、卒業生とまた関係を築いていきたいというような取り組みを考えております。コロナで中断しておりますけれども、新年度から新たに組み組んでいきたいというふうに考えています。

我々では持っていない情報、知識、経験を授けていただけるような人を還流させて、地域の人材を育てていきたいと考えています。

○委員

人材の確保というのは重要なことなんだけど、ここに東京農大があって、毎年 400 名が網走とか近郊にどのぐらい就職しているか、どうして地元にもそのままいてもらえないのかというのも含めて、そういう調査もやったほうがいいような気がします。

我々も、農大にも募集をかけてるし、もっと言うとな道内の大学ほとんどに職員が行って募集のお願いをしています。

高校生はもうほぼほぼいなくなってきているというか、もう高校で就職する人がいなくなってきていて、唯一女の子がまだ少し残ってるんだけど、男の子で高校卒業して就職するって本当にもう減ってしまっている。

それで今もう普通に大学生を採用する仕組みにしているんだけど、なかなか農大からは来てもらえないんだけど、何かもうちょっとやりようがあるのかなという感じはしているんだよね。

今年の 4 月に鹿児島から学生が来るんだけど、それは鹿児島の先生とつながっていて、先生がやっぱり自分の研究生に網走の良さとか水産業の魅力みたいなものを伝えてくれるからですね。本来はやっぱりなるべく北海道、なるべく地元の農大からというのが我々も望ましいと思っているんだけど。

○委員

基本的に今の生物産業学部は道内が 1 割弱なんです。9 割は道外から来ています。それで、今までで見ると大体 85 パーセントぐらいは本州のほうに戻って、5 パーセントぐらいは道内に残っていると。ただ、その 5 パーセントも、網走に残りたいという子もいます。ただし、就職の時期が遅いんです。都会のほうが早いんです。3 年生のこの時期にもう内定をもらっている子もいます。やっぱり就職することを考えると、早いところでまずやって内定もらおうとそこに行っちゃうというのも多いです。

あとは網走はやっぱり受け皿があまりないので、そうすると道内でも札幌になるか、あるいは本州で就職活動して内定もらった会社の例えば札幌辺りで支店があるところに行くと。

意外に北海道に残りたいという子はいるんですけど、受け皿ですね。あとは漁協さんとか、JA さんもそうですけど、採用の時期が遅いんですね。なかなか難しい部分もあるとは思いますが。

○委員

高校は採用の案内するのに何か縛りあるんですよね。

○委員

高校はあります。

大学も一応あるんですけど、もうあつてないようなものです。今はインターンシップを例えば 2 年生、3 年生の夏の時期にやって、もうそこである程度採用と決まってしまうというのもあります。

○委員

今まで面接やるとなったら、こっち側が相手を試すという感覚だったけども、今はまるで違って、向こうが我々を面接に来てるんだよと。すでに来ていた人は内定もらってるからね。内定 3 つありますとか、2 つありますとか平気で言いますから。

やっと少し、うちの職員も感覚が変わってきたというか、これまでの採用してやるんだという感覚とか、今はそんなんじゃないよと。

○委員

もう全国的に人が足りないですね。

だから初任給もどんどん上がっているんで、そうするとやっぱり初任給がいいところ、早

く内定もらえるところにする学生は多いそうですね。

その一方で、1回社会に出てから、ある意味網走に4年間住んで、そして外に出てちょっと離れたところで見ると、網走の良さというのをまた想う子もいて、就職してから戻りたいという子もいます。そういう子たちの受け皿というか連絡先みたいな何かがあったら、またちょっと変わるのかなと思います。

○委員

それは大学とどこかうまくタイアップしてね。我々ももう新卒にこだわらないというふうになってきているから。

○委員

むしろ新卒だと就職して辞めていくという子もいると思うんですけど、中途採用的に一度外で経験して、その上であえて戻りたいという子のほうが居着くんじゃないかと思います。あとはそういう子たちにいかに情報を発信できるかというのが必要かなと思います。

●議長

よろしいでしょうか。それでは基本目標の5「安全・安心で持続可能な地域づくり」ということで、何かお気づきの点がございましたらお願いいたします。

○委員

コンパクトシティの推進と書いてありますが、具体的なプランというのは何もないんでしょう。例えば青森がやっているような、まちなかに住宅を集約していくというようなプランニングというのはやってないでしょう。

●事務局

網走市立地適正化計画というのを立てており、その中で、様々な都市機能をどのようにゾーニングするか、都市機能誘導区域を定めております。ただ、ハードの整備も含めて、実際に各施設や居住地を移動させるというのは、なかなかエネルギーが必要な話ですので、長期的な視点で進めるべきものと思っています。

コンパクトシティ、直接足で歩いて活動できる、行動できる範囲内でどう生活していくかというところは、当然考えていかなければならないものですし、様々な拠点をある程度作って、その拠点同士を公共交通で結んで生活機能を維持していこうという仕組みもありますので、先進事例を見ながら、長い年月がかかるものだと思いますが、進めていく予定です。

新庁舎が来月共用開始されますが、庁舎の跡地をどう活用していくかという問題もあります。公共では、開発、海上保安庁、気象台など、建物が一斉に耐用年数を迎えて移動しなければならないという時期を迎えます。現地で建て替えるというのはなかなか難しいですから、玉突きで移動してということになりますので、移転するタイミングでどこに何を持ってくるのが適当なのかというところは検討が必要です。

関係者によるそういう議論はもう始まっているんですが、大きな話ですのでなかなか一足飛びには進まないという現状です。

○委員

昔の話で言うと、いわゆるアカデミア構想の時代から見たら、網走のまちが一体どういうふうに変わっていくかという情報がまったくないし、わからないんだよね。

市役所が動きました、跡地をどうしますという議論の中で、少し耳に入ってくるものもあるけど、そこだけじゃなくて、このエリア全体が、商店街も含めて一体どういうふうにしようとしているのかというのが伝わらない。これはなぜ伝わらなくなったんでしょう。昔はなんとなく、なるかならないかわからないけどこうしたいという構想が、表にどんどん出てきてたんだけど、そういう構想が表に出てこなくなったよね。

●事務局

我々のPRがちょっと下手なのかもしれません。ご意見としてありがたく頂きます。

○委員

もっと言うと、たたき台というか、我々はこう考えるみたいなものを、市である程度持つてるとか動いてるんだったら、こういうふうな形の市街地を作りたいとか、成功するかしないかはわからないけど、そういうものをやっぱり出して、市民の気運を醸成していくことをやっていかないとだめなんじゃないかと思います。

○オブザーバー

G Xの推進なんですけども、再エネとか省エネとかやってゼロカーボンシティを目指すというところですが、これは市役所だけで取り組むんじゃなくて、やはり市内の事業者とかも含んでやらないと、網走市全体でのゼロカーボンは達成できないですよ。そういった取り組みというのはこれからされるんでしょうか。

●事務局

おっしゃるとおりです。

網走市は一昨年、ゼロカーボンシティを宣言いたしました。2050年のカーボンニュートラルに向けて、様々な取り組みを進めていこうという状況です。

今現在、まずは市役所自体の実現を目指そうというところをやっておりますが、そこだけでは市全体のゼロカーボンは達成できませんので、ここをさらに民間にも広げていく必要があります。

ゼロカーボンを進めていく上では、再生可能エネルギーの利用普及、省エネ化、例えば事務所で使っている機器を省エネタイプに置き換えていくですとか、そういったところを踏み込んでいかなければなりません、何にしても費用のかかる話ですので、中小企業の多い網走市においては、それがどこまで対応できるかというところが一つ。

それから、このゼロカーボンという概念は、出す温室効果ガスと吸収する温室効果ガスを相殺して最終的にゼロ扱いにしようという概念でございますので、一方では、植林をしていく、温室効果ガスの吸収の方でも進めていくというような取り組みを並行してやっていく必要がございます。

一部、学者さんの言葉を借りれば、北海道は苫小牧、室蘭以外はもうすでにゼロカーボンを達成しているというようなご意見もありはしますが、それに甘えることなく、世界と戦うためにはSDGsの取り組みも欠かせませんので、この概念にも沿って様々な働きかけをしたいのですが、実行には費用もかかりますので、その辺り行政としてどこまで支援ができるかということも並行して議論が必要な部分だろうと考えております。

●議長

よろしいでしょうか。

一応すべての目標について話しましたが、全体を通しまして、何かお気づきの点、聞いておけばよかったということがもしございましたらお願いいたします。

それでは、いろいろご意見をいただきましたので、これでこの議題については終了とさせていただきますと思います。本当にありがとうございました。

議題の2、その他ですけども、こちらは何かございますか。

●事務局

皆様の貴重なご意見、ありがとうございました。

本日お配りした総合戦略ですけども、この後もゆっくりお目通しいたしまして、お気づきの点ですとかご意見等ございましたら、一応様式はご用意しておりますが、どのような様式、方法でも構いませんので、ご意見を頂戴できればと思っております。

大変こちらの都合で申し訳ないんですけども、2週間後の2月6日木曜日までに事務局までお寄せいただけますと幸いです。よろしく願いいたします。

皆様からいただいたご意見を反映させていただきまして、2月中旬にこの会議をもう一度開催しまして、素案とさせていただきますと思います。ちょっとスケジュールがタイトなんですけども、またご案内を差し上げたいと思っております。

その後、皆様からいただいたご意見を基に素案を作成しまして、パブリックコメントを実

施しまして市民の皆さんからのご意見も集約した後に、最終案についてご意見も頂戴しまして成案とする予定となっておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上です。

●事務局

今日、まさに初稿をお見せしたばかりです。

今すぐには意見が出ないと思いますので、お持ち帰りいただいて気づいたことを随時、電話でもメールでもファックスでもなんでもかまいませんので、2月6日を目途としてご意見をください。このご意見を反映した後、2月中旬にもう一度皆さんに意見を反映したものをご覧いただきます。そして、そこでもまたご意見をいただいて、最終的に2月末までに素案として固めてまいります。

固まった後、次は市民に向けてご意見をいただくためにパブリックコメントを実施しますが、これは1か月必要です。30日間、皆さんにご意見をいただく期間を設けてやります。

そこでいただいた意見もまた反映して、最終は3月末に、そんなに意見がなければ書面でお示しして終わりということもあろうかと思いますが、3月末には市民意見を反映した後の最終案を皆さんにご確認をいただいて成案化してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

私たちが気づいていないところがおそらくいっぱいあると思いますので、ぜひ忌憚のないご意見、随時お寄せください。よろしくお願いいたします。

●議長

それでは皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

これで本日の議事は終了いたしましたので、以上で会議を終了させて頂きたいと思います。皆様、ご協力ありがとうございました。

(以上)